

令和7年度 第11回生坂村ゼロカーボン推進プロジェクト会議録

日 時：令和8年2月25日（水）15時00分

場 所：村民会館講堂

村長より

- ・ 環境省の中間評価があり、概ね良好な評価をいただいたところである。PPA 事業に関しては、これだけ進んでいる地域は少ないということで、モデル地域になるのではないかという評価をいただいたと聞いている。
- ・ 上生坂のマイクログリッド構築事業は、ご覧の通り県道等への埋設管が設置され、大型蓄電池も B&G 海洋センターの裏に設置された。これから地中電線の設置を行うということで、計画通りに進んでいることに感謝を申し上げたい。
- ・ 広報計画については動画を作成し、配信を通して住民の皆さんにご理解、ご協力をいただきながら、来年度は更に民家の PPA 契約数を増やしていきたいと考えている。来年度予算もほぼ出来上がり、脱炭素先行地域づくり事業は大きな事業になる予定であるため、ここにいる皆さんでしっかり検討協議を進めながら、より良い事業にしていけるようよろしくお願いをしたい。

【協議事項】

○脱炭素先行地域 令和7年度中間評価について

- ・ 令和8年2月3日に行われた環境省の中間評価ヒアリングで次のような意見があった。

環境省本省からの意見

- ・ (株)いくさかてらすが小売電気事業者に登録されたのが今年の3月で、村の規模からするとこの期間で今の契約件数（127件）は順調に進んでいると思う
- ・ PPAによる再エネ電力の供給が出来ず、いくさかてらすシンプルプランのような契約形態の需要家もあると思うが、できるだけ PPA での供給を進められるよう、合意形成を図っていただきたい
- ・ 127件という契約数は、全体の母数や期間を考えると決して悪くないと思っている。他の先行地域でも PPA の契約はなかなか増えていないようなので、

引き続き伸びが落ちないように期待する

- ・（遊休地等へのオフサイト PPA）太陽光発電を増やすことは重要だが、一方で営農の継続も必要だと考えるので、それらをうまく組み合わせて持続可能な農業の一助になればと期待している。他の先行地域の事例も参考にしながら検討してもらいたい
- ・木質バイオマスストーブの導入は、認知が低くあまり進んでいないようだが、関連イベントなどで啓発はやられているようなので、引き続き取り組みを続けていただきたい
- ・マイクログリッドは元々2つのエリアで構築する計画だったが、草尾地区の方は自営線をやめて既存電線の活用に変更すると聞いている。そうなっても、電気の供給維持・ブドウ園のレジリエンス向上・ブドウ栽培の事業継続という、当初の目的は保っていただきたい
- ・小水力発電事業は関係機関との協議が続いているようだが、来年度以降の工事についても順調に進めていただきたい

評価委員からの意見

- ・オンサイト PPA は1件1件丁寧に対応する必要があり、現状進捗率の数字だけだともう少しという風に見えるかもしれないが、施策をしっかりと前に進めている状況はよく分かる。先に契約した人の口コミや松本山雅による地域貢献ともリンクしていくと、モデル性・話題性もしっかり見えてくると思う
- ・PPA は元々目指していた計画の件数にはまだ先があるように見えるが、127件というのは進んでいる方だと感じる。他の地域はここまで進んでいないので、進め方や工夫が優良事例として蓄積されると、他の地域の役にも立つと思う
- ・オフサイト PPA は遊休農地の管理にもなるという考えが以前は結構あったが、最近は景観への影響みたいなネガティブイメージの方が先に来て、進め方に困っている団体の声を聞く。景観的にマイナスにならないというまいり方を模索していただきたい。例えば全面に太陽光パネルを載せずに少し余裕を持たせ、隙間は管理された状態で植生を維持するとか、耕作する部分に戻すとか、手法はあると思う
- ・遊休地を切り開いて太陽光パネルを設置するのに伐採する木の優先順位を決め、地域の希望も聞きながら場所を決めていくと、受け入れられやすいのではないか
- ・ペレットストーブには、ストーブの普及からペレット工場の稼働まで村内で回し、山林の管理が林業として成り立つぐらいの大きなものを描ける可能性

はあると思っているが、やはり持続的に回る仕組みでないと、無理をすることになる。ペレットの配達など新しい流通ネットワークまで含めて、地域の中にペレットストーブに関わる人や企業が出てくると良い。灯油がすぐ買えない地域などでは期待もあり、面白いモデル性のある取り組みになるポテンシャルがあると思っている

- ・古民家脱炭素リノベーションは実績がまだ2軒だが、こういう事業はシンボリックで目立ち、人が集まるようなものでありとても良いので、ぜひ頑張ってください
- ・マイクログリッドは、自営線そのものよりも、効果としてのレジリエンスや、電力の地産地消という形が欲しいのだろうと思うので、無理に自営線の新設ではなく既存システムを使いながら元々欲しかったレジリエンス機能を実現していくという修正は適切。蓄電池も非常時だけでなく平常時にうまく使う活躍の場もあると思っている
- ・小水力は他の団体でも苦労していて、新規建設に踏み切れないようだが、生坂村の方は稼働率を上げて発電量を増やすところまでいっているのだから、稼働すると地域の非常に頼れる再エネ電源になると期待している
- ・太陽光パネルの下の空間を有効活用し、野菜栽培や養鶏を行うような、視覚的に訴えかけるアグリソーラーシェアリングのコンセプトを前面に出すようにすればどうかという意見があった。

○上生坂マイクログリッド工事に関するお知らせ

- ・県道に埋設設置した管に地中ケーブルを新設する工事を2月25日（水）～3月11日（水）にかけて実施すると説明。
- ・雷対策について質問があり、避雷線等で雷対策は行っていると説明。

○広報計画について

- ・広報動画の進捗状況及び今後の広報計画予定について次のとおり説明。
【進捗状況】
 - ・2月13日（金）からICN自主放送にて広報動画の放映開始
 - ・生坂村 YouTube チャンネルに動画を投稿

- ・ 龍と子 HP にて動画（QR コード）を掲載
- ・ SNS（Instagram）に投稿

【今後の予定】

- ・ 太陽光・蓄電池の広報動画を道の駅にて放映
- ・ 電気自動車の広報動画について、ICN 自主放送、YouTube にて放映
- ・ HP、SNS に投稿する
- ・ 太陽光・蓄電池ポスター（漫画で分かる！太陽光・蓄電池のメリット）を蓄電池のある公民館等に掲示

○その他

- ・ 龍と子 Vol 2 6 の内容について説明。
- ・ 松本山雅から、1 月 25 日の薪・ペレットストーブフェア報告として次のとおり説明があった。
 - 開催目的
 - ・ 導入促進と有形発信の推進
 - ・ 補助制度の周知
 - ・ 実機体験による不安の解消
 - 広報活動
 - ・ 村内告知に加え、SNS（LINE・インスタグラム）を中心に情報発信
 - ・ チラシ配布による集客
 - ・ 日産リーフの給電風景やキッチンカー出店の様子を SNS で発信
 - ・ イベントの柔らかい雰囲気写真を写真や動画で紹介
 - イベント内容
 - ・ ペレットストーブと薪ストーブを計 11 台展示
 - ・ 来場者が実際に見て触れられる体験型展示
 - ・ 会場は道の駅いくさかの郷
 - ・ 焼き芋の振る舞い、キッチンカー出店によりお祭りのような雰囲気を創出
 - アンケート結果
 - ・ 導入意向は前向きな回答が多数
 - ・ 導入時の課題や制度の認知状況を把握
 - ・ イベント満足度は非常に高い評価
 - 成果
 - ・ 関心の高い来場者が多く、村外からの参加もあり

- ・ 事業 PR として一定の成果
- ・ 来場者満足度が非常に高い結果

■ 課題

- ・ 薪・ペレットストーブ導入には設置場所やメンテナンス面のハードルあり

■ 今後の対応

- ・ 村として丁寧な説明機会を設ける
- ・ 継続的な開催を検討
- ・ 子どもたちへの環境教育の中で体験機会を創出
- ・ イベント以外の多様なチャネルを通じた導入促進を推進

【意見・質問】

- ・ 来年度は 10～11 月に「冬前に導入するメリット」を明確に打ち出した木質バイオマスストーブの導入促進キャンペーンを企画し、当日成約につながる限定特典や優先設置枠などのインセンティブを計画して欲しい。あわせて、「赤とんぼフェスティバル」との連動について主催者と協議し、日程・会場導線・体験コンテンツ枠を確保したうえで、展示・デモ運営を計画して欲しいという意見があった。
- ・ 省エネ家電の設置補助で、エアコンの導入価格帯が高すぎることで利用者にとって大きな障壁になっているので、よりリーズナブルな選択肢の提供ができないか質問があり、補助金の交付要綱で対象機種を省エネ達成率 100%の製品に限定しているため、この省エネ基準を満たす製品は市場において必然的に高価格帯のモデルとなると説明。
- ・ 環境省の中間評価における内容の通り生坂村は脱炭素先行地域づくり事業が進んでいるので、中山間地域を対象にサミットを行えばどうかという意見があった。
- ・ 龍と子を見ての読者の意見や感想を募ったらどうかという意見があった。